

みんなで支え合う

国民健康保険



ご存じですか？ ジェネリック医薬品

「ジェネリック医薬品」(後発医薬品)とは、新薬(先発医薬品)と効き目や安全性が同等と国が認めた安価な薬です。ジェネリック医薬品を使用することにより、薬代の軽減につながります。

Q ジェネリック医薬品の種類は？

A ジェネリック医薬品は、高血圧や脂質異常症の薬などさまざまな分野や症状に対応しており、カプセル、錠剤、点眼剤など、その形態もさまざまです。

Q 新薬と比べ、安価なのですか？

A 開発費用が多くかかる新薬に比べ、開発期間が短くてすむジェネリック医薬品は、ほとんどが安価となっています。

Q ジェネリック医薬品はどこに行けば処方してもらえるの？

A 病院・医院・クリニックで発行される処方箋にジェネリック医薬品の名称が記載されていれば、薬局で調剤してもらうことができます。ジェネリック医薬品の名称が記載されていなくても、「後発品への変更不可」欄に医師のサインがなければ、薬剤師さんと相談の上、薬を選ぶことができます。すでにお配りしています「ジェネリック医薬品お祝いカード」を医療機関の受付時に提示して、処方について相談してください。

※新薬からの変更を希望しても、対応するジェネリック医薬品がない場合があります。また、医師の判断により、ジェネリック医薬品が処方されない場合があります。



◆問い合わせ先 住民課 保険年金担当 ☎6571

感雑向綿

日野町長 藤澤直広

かつて、この国で「平成の合併」の嵐が吹き荒れ、市町村は国や県から「合併しない」とやっ

加をお願いします。地方自治は『民主主義の学校』とも言われます。自分たちのまちのことを自分たちで考え行動することは自治の原則であり、民主主義の基本です。この国には、都会も田舎もあっていい、大きな都市も小さな町村もあっていい。地域の特性を活かし、誇りと愛着をもって、地方自治を先進させるこそ「平成の合併」の貴重な教訓です。

いう「脅し」が執拗に行われました。今から10年前、平成15年2月、雪深き長野県栄村で第1回全国小さくても輝く自治体フォーラムが開催されました。フォーラムでは合併に頼らないまちづくり宣言がされ、多くの自治体関係者に勇氣と希望を与えました。日野町でも平成17年に日野町自律のまちづくり計画を策定し、合併に頼らない自律のまちづくりをすすめてきました。日野町が日野町として着実な歩みを進められることは本来にありがたいことです。そのフォーラムの第18回大会を県内6町が協力して6月29日、30日、日野町で開催します。全国各地から町村長をはじめ地方自治研究者や自治体関係者の皆さんがこられます。元気に頑張る全国の皆さんと大いに交流し学びたいと思います。町民の皆さんも是非ご参加をお願いします。

ところが、今、都道府県を「合併」して全国を10程度の道州にする「道州制」の議論があります。例えば、近畿地方が「関西州」となれば、「州都」は大阪になり滋賀県は「周辺部」になります。国の権限や財源を「道州」に移譲してしまえば、社会保障や教育をはじめ国民生活の水準に大きな地域間格差が生じます。だから全国町村会は道州制に反対しています。この国にある「閉塞感」は、47都道府県を廃止すれば、市町村の合併を進めれば、地方自治制度を変えれば打開できるというものではありません。政治のあり方こそが問われています。誰もが幸せになる国をめざし力をあわせましょう。